



シャガールの女

1914-1918

辻 亨子句集

はつみ堂

また別の水音に会ふ紅葉坂

蛸さげて帰る算段してをりぬ

三度ほど向き変へフエリー夏濤へ

隣り合ふ嬰よく笑まひ桃の花

遙か来し会津は憲法記念の日

イグアナの瞑想とけず秋の暮

漢薬の本家を名乗る角火鉢

パラソルを夫に託して東司借る

苗売りの紀州訛りと気が合ひて

夫待たな紅葉明りに寺縁起

水仕事夫に残して風邪寝かな

湯加減を尋ねてくるもどり寒

桃畑夫の差し出すのほほん茶

山繭の中より生れし嬰かとも

母のゐて夫・子・孫ゐて晦日蕎麦

母の手の届くところに初暦

春立つ日母の机上の「津田梅子」

鼓笛隊の先頭は吾子若葉風

ブラウスもローランサン色春隣

シャガールの女斜めに秋の薔薇

ワルツ流る金魚ゆらりとひるがへり

アリア歌ふやうに呼びつつ焼芋屋

沐浴の少女の背なや新樹光

休止符も終止符もなく虫すだく

左手のドミソドソミソ初稽古

音合せ止みてホールに冷えまさる



卵とぢうどんのやうな春の昼

洋梨のやうな婦長に二度呼ばる

春愁の顔をざぶりと洗ひけり

鳥瓜ただぶうらりとしてゐたき

雲隠れしてみたくなり芒原

梅白しいつか独りになるのかな

水の字がいくつも生まれあめんばう

西瓜の種あうらにつけて眠りをり

新嫁と顔を近付け墓洗ふ

ストローで吸つてみたいな寒の星

身の内を風通り過ぐ夏座敷

木の玩具ころがつてゐる夏野かな

梅見茶屋ほあんほあんとフランス語

海光も風もうわつと春になる

交はれる蜥蜴螺鈿の愛こぼし

でつぶりとトマトケチャップ大昼寝

あんさんのよろしいやうに春裕

マンモスの化石出るまで耕せり

蝉の穴誰かが丸で囲みたる

花吹雪あつち向いてほおいお亀石

水打ちて風新しき奥嵯峨野

ほんにまあよう気のついて釣忍

文机の角より年の明け始む

引つ掛かりなき耳搔きや春寒し

春の月通天閣の上にな

また別の水音に会ふ紅葉坂

蛸さげて帰る算段してをりぬ

三度ほど向き変へフエリー夏濤へ

隣り合ふ嬰よく笑まひ桃の花

遙か来し会津は憲法記念の日

イグアナの瞑想とけず秋の暮

漢薬の本家を名乗る角火鉢

パラソルを夫に託して東司借る

苗売りの紀州訛りと気が合ひて

夫待たな紅葉明りに寺縁起

水仕事夫に残して風邪寝かな

湯加減を尋ねてくるもどり寒

桃畑夫の差し出すのほほん茶

山繭の中より生れし嬰かとも

母のゐて夫・子・孫ゐて晦日蕎麦

母の手の届くところに初曆

春立つ日母の机上の「津田梅子」

鼓笛隊の先頭は吾子若葉風

ブラウスもローランサン色春隣

シャガールの女斜めに秋の薔薇

ワルツ流る金魚ゆらりとひるがへり

アリア歌ふやうに呼びつつ焼芋屋

沐浴の少女の背なや新樹光

休止符も終止符もなく虫すだく

左手のドミソドソミソ初稽古

音合せ止みてホールに冷えまさる

卵とぢうどんのやうな春の昼

洋梨のやうな婦長に二度呼ばる

春愁の顔をざぶりと洗ひけり

鳥瓜ただぶうらりとしてゐたき

雲隠れしてみたくなり芒原

梅白しいつか独りになるのかな

水の字がいくつも生まれあめんばう

西瓜の種あうらにつけて眠りをり

新嫁と顔を近付け墓洗ふ

ストロ―で吸つてみたいな寒の星

身の内を風通り過ぐ夏座敷

木の玩具ころがつてゐる夏野かな

梅見茶屋ほあんほあんとフランス語

海光も風もうわつと春になる

交はれる蜥蜴螺鈿の愛こぼし

でつぷりとトマトケチャップ大昼寝

あんさんのよろしいやうに春裕

マンモスの化石出るまで耕せり

蝉の穴誰かが丸で困みたる

花吹雪あつち向いてほおいお亀石

水打ちて風新しき奥嵯峨野

ほんにまあよう気について釣忍

文机の角より年の明け始む

引つ掛かりなき耳搔きや春寒し

春の月通天閣の上にな



句集 シャガールの女

二〇〇一年八月二日

著者——辻 享子

発行人——山岡喜美子

発行所——ふらんす堂

〒182-0002 東京都調布市仙川町一―九―六一―一〇二

電話——〇三(三三三二六)九〇六一 FAX 〇三(三三三二六)六九一九

ホームページ <http://www.ifnet.or.jp/fragie> Email fragie@apple.ifnet.or.jp

振替——〇〇一七〇一―一八四一七三

装幀——君嶋真理子

印刷所——(株)トヨ―社

製本所——(有)並木製本

定価——本体二五〇〇円＋税

ISBN4-89402-418-7 C0092 ¥2500E